

スポーツ文化の風を発信する

学報 NITTAIDAI 17号

2008.Spring



CONTENTS

特集●新執行部からのメッセージ—1

INTERVIEW●アスリートたち—7

新採用教員の研究内容—9

Active people●第一線で活躍するOB紹介—10

クラブ情報●07年度秋・冬季クラブの主な大会成績—11

NEWS●07年度下半期ニュース—12

INFORMATION●dot.NITTAIDAI—15



NSSU

Nippon Sport Science University

口野武史(体育学科4年)
撮影：横浜・健志台キャンパス



伝統と実績を踏まえ 新たな体育・スポーツの 日体大モデルを構築します

学 長
おちあいたくしろう
落合卓四郎

これからの大学教育は、社会情勢の急激な変化に伴い、多様となった価値観・期待感を的確に受け止める柔軟性と個性化が求められています。

百十有余年の伝統と実績を礎に、本学は今まさに、そのための改善・改革を進め、社会的期待に応える大学づくりに邁進しているところです。

私は、昨年7月の学長就任当初から一貫して申し上げておりましたが、この大学改革を遅滞なく着実に進めていくことが、学長としての大きな役目であることは言うまでもありません。強い意志を持って遂行していく所存であります。

大学改革構想のなかで、すでに実現し稼働しているものとしてアドミッションセンターとキャリア支援センターの設置があります。アドミッションセンターは、新しくスタートしたAO入試、学生募集など、本学が求める人材を幅広く日体大に誘う業務を担っています。キャリア支援センターはキャリアデザイン、キャリア教育指導など、幅広く学生の卒業後のキャリア形成の支援をしています。大学への“入口”と“出口”は切り離すことのできない密接な関係にあることから、両センターが連携し効率よく機能することが期待されます。

また、この大学改革の目指すところは、学生の目線に立った、わが国のトップを走り世界をリードする個性豊かな「体育・スポーツの日体大」の確立に向けての日体大モデルの創造でもあります。

本学で高度なスポーツ技術・技能を獲得させ、指導・実践力の涵養を図り、「すべて実践を通して学び、考える力を身につける」ための教育システムに改善し、併せて教育構造改革をすすめます。これによって、キャリアパスの発見と保障を提供できる柔軟かつ個性的な教育ができるものと信じています。

そのフィールドとして現在進行中の東京世田谷キャンパス再開発を計画通りに完全遂行し、併せて横浜・健志台キャンパス及び学生寮の整備に着手していきます。

さらには、諸先輩が、営々として築き上げてきた日体大のブランド力をより高めるために、競技力の向上「強い日体大」が不可欠と考えます。そのための日体大モデルというべき教育構造には、教学(教育・社会貢献・研究)と学友会活動及びスポーツ局との関係の再構築が必要であり、それなくしては本学の競技力のさらなる向上はありえません。教学と学友会活動が両輪であるという本学の強みが一層機能するよう教育システムの改善に取り組み、学友会活動を教学上でも保証するだけでなく、積極的に支援・活用できるよう建学の精神とミッションに沿って教育構造を整備していきたいと考えております。

これからの本学における大学改革へのご期待とご協力を皆様切にお願い申し上げます。

スポーツ局長(兼務)

『『強い日体大』に相応しいサポート体制』

本学は学友会活動と教学が両輪とし機能するという強みを活かして、長い歴史と伝統の中で多くの世界のトップアスリートを輩出してきました。この体制をバックアップするためにスポーツ局を設置し、スタッフとしてコーチ、管理栄養士、マネジメントスタッフなども専門職として位置づけ、特に強化の必要がある競技団体と選手のサポートを行っています。

今後は、その成果をさらに充実・強化し、わが国のトップを走り世界をリードする「強い日体大」に相応しいものとなるよう努めてまいります。

特に、本年は北京でオリンピックが開催され、本学在学学生はもとより多くの卒業生も選手・監督・コーチ・スタッフとして参加することが見込まれますので、「強い日体大」をアピールするためにも様々なサポートをしていきたいと考えています。

日体大新執行部からのメッセージ

東京世田谷キャンパス再開発も順調に進み、大学改革のアウトラインが次第に具体的になってきた。

2008年はオリンピックイヤー。

「体育・スポーツの日体大」としてさらに大きく進化を遂げようとしている本学にとっても、改革実現に向け、まさに飛躍の年となることだろう。

その推進役となる大学・短大の新役職者が決定し、落合学長のもと、新体制がスタートした。

執行部として、学生、保護者、同窓の皆様、教育現場やスポーツ界、地域、国際社会からの期待に応えるべく、教育・研究、競技力強化、学生サービス向上に取り組む意気込みを語って頂いた。



副学長(企画・管理・運営担当)

監物 永三

アドミッションセンター長
(兼務)

『東京・世田谷キャンパスの再開発を本学のチャンスに』

本学が掲げる大学改革構想の遂行を軸に、学長を補佐していくことが私の使命であることは言うまでもありませんが、具体的には競技力向上をメインとした2009年度カリキュラム構築に向けて全力投球していきたいと思っています。併せて、学友会運動部の改革、体育研究所やスポーツ・トレーニングセンター、健康管理センターが一体となった日体大版JISS(JISS=国立スポーツ科学センター)構想等にも着手し、「強い日体大」づくりに向け、選手のフォローアップ体制強化を進めて参ります。

新構想・新体制の始動にあたり、東京・世田谷キャンパスの再開発が、気持ちも新たに教職員一体となって改革に取り組む契機となり、本学のプライドと誇りを持って、新しい時代にふさわしい日体大を築き上げていきたいと思っています。

『フットワークよく、積極的に学外へアプローチしていきたい』

今や大学が選ばれる時代。待っていて学生が来るといった受身の姿勢は通用しません。そのために学内においてさまざまな改革構想が打ち出されているわけですが、同じ視線で学外へ向けたアドミッションセンター運営の方向性も考えていかなければなりません。

伝統の上に安住するのではなく、むしろチャレンジャーとして積極的に学外へアプローチしていくアドミッションセンターでありたいと思っています。高校生達がどのように本学を眺めているのかということをしっかりリサーチし、時には試行錯誤を重ねながらフットワーク良く展開していくことが重要です。

高校生の目線に立ち、できるだけ親切丁寧な対応を心がけ、「強い日体大」にふさわしい競技力の高い学生を一人でも多く獲得していきたいと思っています。



副学長(教学・学生生活担当)

成田 國英

キャリア支援センター長
(兼務)

『カリキュラム・学生支援のさらなる充実に取り組みます』

21世紀社会に相応しい体育・スポーツの総合大学を目指し、本学の改革を推進すべく、副学長の立場で学長を補佐して参りました。新体制では、企画・管理・運営担当から教学・学生生活担当へとその立場は変わりますが、各教職員と協力しながら、大学が掲げる11の改革構想をさらに具現化していく使命は何ら変わるものではありません。

現在、東京・世田谷キャンパスの再開発が進んでいますが、施設面の整備とともに取り組まなければならないのは教育内容の充実です。勉学とスポーツを両立させながら、その両面でいかに成果をあげていくかが今後の一番の課題です。日々の授業の質を高め、生活面でもさらに学生に満足してもらえるような環境づくりを進めていくことで、学生・保護者の皆様の期待に添えるよう努力してまいりたいと考えています。

『教職、企業、公務員等、それぞれが希望する進路を保障するために』

キャリア支援センターは、昨年度アドミッションセンターとともに立ち上げられました。本学に希望をもって入学した学生諸君に対し、責任をもって、できる限りその希望に応えた進路を保障することがキャリア支援センターの使命であることは言うまでもありません。

そのためには、キャリア支援センターとして学生が訪れてくれるのを待つだけではなく、従来以上に講座・セミナー等を充実させ、積極的に学生諸君に働きかけていきたいと考えております。学部生・短大生ともに、早い時期から進路に対する意識付けを行うことが重要です。さらに、120年近い伝統をもつ日体大の強みを活かし、同窓の先輩方、保護者会、全国各地の企業、教育委員会・教育機関等との連携を密にして、進路先の開拓にもいっそう力を入れていかなければならないと考えています。



日体大新執行部からのメッセージ



大学院研究科長
高橋 健夫

『実践重視の教育により広く門戸を開放し、社会貢献を果たしていきたい』

大学院の今後の方向性としては、より実践面を強化していきたいと考えています。一般的に大学院は研究色が強いという認識がありますが、例えばコーチング学、体育教育学、健康処方などの各ターゲット領域で高度な職業人を育成、輩出することは本学大学院として重要な教育目標であり、これこそ日体大が最も強みを発揮できるフィールドです。現場の実態にあわせて研究の領域を再構築することで、専門職大学院など大学院教育の可能性も広がり、ひいては学生を受け入れる分野の拡大、それに伴い進学希望者の増加につながるのではないのでしょうか。

具体的にはカリキュラム、入学試験のあり方も見直しが必要になってくると思いますが、高度職業人育成を目的としたルートと博士後期課程へのルートの2つを用意することにより、学部卒業生ばかりでなく広く社会人、現場の教員にも門戸を開放できると思います。



体育学部長
清田 寛

『体育指導者・優秀な競技者を育てていくことが本学の使命』

日体大のスポーツをどのような形で強くしていくか、「強い日体大」創りについて検討を重ねてきました。本年度4月から導入された2008年度カリキュラムを、今後、実技面の充実はもとより、カリキュラム体系のスリム化など履修する学生の目線に立った見直しに向けて、さらに検討を始めています。

大学全入時代を迎え大学間競争が進む中で、競技スポーツにおいて優秀な選手を養成していくことと併せて、優秀な教員・指導者を輩出していくことが、本学の特色でもあり魅力として考えています。日体大の卒業生が中学校・高等学校における現場指導に携わり、そこで学んだ生徒達が本学に進学するといった循環による連携が広がれば、大きな財産となるものと思います。そのためにも、11の大学改革構想の実現に向け努力していきたいと思えます。



体育専攻科長
本間 啓二

『少人数だからこそ可能な実践的教育を展開したい』

1年間で専修免許状を取得できるという体育専攻科の特性を活かし、主に教員を目指す学生に、知識と実践が学べる場を提供していきたいと思っています。

今、教育の現場では、指導案作成や教材研究、授業の運営能力といった授業力だけではなく、学級運営や集団をコントロールする統率力にも目が向けられています。その実践的な力を伸ばすために、多くの学生を教育する学部とは異なり、少人数の授業が展開できる体育専攻科は、大いに特性を発揮するだろうと考えます。例えば、地域の学校と連携をとって、サポートティーチャーとか指導補助といった形で現場のお手伝いをしながら実践力を身につけることもできますし、スポーツを通して豊富な経験を積んだ本学の学生は期待をもって迎え入れることでしょう。少人数だからこそ可能な教育を実現していきたいと思えます。



体育学科長
伊藤 直樹

『本学の看板学科にふさわしい学生の育成を』

体育学科は4学科の中でも最も学生数が多く、日体大の看板とも言える歴史ある学科です。優れた競技者、そして礼節をわきまえた、日体大らしい日体大生が育つよう願っています。競技については、クラブ活動がスムーズにできるカリキュラムが構想されておりますので、それに沿って支援していきたいと思えます。また教員養成をはじめとするキャリア支援も教育の重要な柱であり、キャリア支援センターが企画・実施する講習やセミナーなどのプログラムに学生が参加し、自分の進路をきちんと決めることができるようリードしていきたいと考えています。

大学4年間では、勉学や競技で挫折やスランプを味わうこともあろうかと思いますが、本学に入学した理由や目的は何かという原点に立ち返り、ぜひ当初の志を実現してください。我々も全力で向き合い支援します。

日体大新執行部からのメッセージ



健康学科長
みやじま 敏
あきら

『少子高齢社会のニーズに応える人材を輩出していきたい』

健康学科は、人々の体力向上と健康増進のために指導・支援する人材の育成を目的に、職場における第一種衛生管理者、学校における養護教諭、さらには福祉サービスにおける社会福祉士まで対象とする領域を広げてきました。現行の「養護コース」「社会福祉コース」の2コース体制の中で、今後は関連する一部の科目についてはコースにかかわらず履修できるようにし、柔軟に学ぶことができるカリキュラムを検討していきたいと考えています。

少子高齢化が進む現代社会では、体力向上、健康の維持・増進にますます大きな関心が寄せられています。その社会的使命に応えるためにも、スポーツ医科学と福祉の連携に基づいて専門的な知識や技術を習得することを柱に、諸課題に対して本学ならではのスポーツの専門家としての視点でアプローチできる人材の育成に力を注いでいきたいと思っています。



武道学科長
はかまだ だいじろう
大蔵

『国内外へ武道・伝統文化を正しく伝えていきたい』

武道学科のカリキュラム・教育プログラムについては、今後も時代や学生の要望にあわせてより良いものにしていきたいと考えています。中でも諸外国で好評を博している伝統文化交流実習については、さらに充実させていきたいと思っています。昨年度はドイツスポーツ大学ケルンが本学の国際交流協定校であることから、ドイツのケルンとデュッセルドルフで演舞会、各種目交流会等を実施し、関係者はじめ総領事館からも全面的にバックアップするので来年もぜひ来て欲しいという高い評価を頂きました。武道、伝統文化を正しく伝えていくことは我々の務めであり、伝統文化交流実習の成功は大きな励みになっています。また、国内に目を向ければ中学校における武道の必修化が予定されており、この面からも武道の指導・伝承のあり方について研究していくことが重要な課題だと思っています。



社会体育学科長
おしだ かずみ
大出 一水

『新しい社会体育学科の展開へ向けた第一歩』

本学科は、地域社会におけるスポーツリーダーとして活躍しうる人材を輩出し、健康で豊かな生涯スポーツ社会を構築するための原動力となるというミッションのもとに、社会教育、レジャー・レクリエーション、野外スポーツ、自然体験活動、障害者スポーツなどの各領域において専門的知識の習得とキャリア形成の場を提供してきました。

現代は、情報が国境や時差を越えて飛び交うグローバル化時代となっており、その新時代に向かって、本学科はスポーツ文化を創造するためにスポーツマネジメント、スポーツレジャー、レクリエーションマネジメントに精通した指導者養成を推進し、国際的に活躍できる人材の育成に尽力していきたいと思っています。



教養・教職科長
くろだ かずまさ
黒田 稔

『教養・教職課程指導を通じた自己発見と自己形成の支援が課題』

大学教育においても基礎的な学力の養成は、高等学校教育までに育んできた資質を尊重し、連続的なものとしてとらえていかなければいけません。教養という視点から、それらの資質を基礎に、本学においては体育・スポーツ・健康領域といった専門分野の基礎教育を充実させて行く事と、社会人や大人としての教養を広め、隠れた資質を自ら発見し、より高めていくチャンスを提供していくことが課せられた使命と考えます。また、教職課程における教員養成においても同様に、自己発見と自己形成の中で、新しい時代が求める教員としての資質を見極め、いかに向上させていくかが課題だと考えます。

皆さんには、大学での4年間、あるいは2年間で、価値観が多様化するグローバル化時代の中、最良と思う生き方や知識を身につけ、さらに、新しい自分を発見し成長していった欲しいと思っています。





短期大学部長
むらかみ おさむ
村上 修

『本学短大の個性を明確にし、その中で学生の自立を支援していきたい』

本学短大の特色である体育・スポーツ・健康領域における専門性、その体験から明るく実行力のある柔軟な人材を育成する本学は、他の短大に勝る環境であると思います。その人材特性を発揮できる卒業後の進路開拓に取り組んでいきたいと考えています。

体育科では、体育・スポーツに関する学習や各種の実習体験を活かした進路選択ができます。一方で大部分の学生が学部へ編入学し、さらに高度な学習を積み重ねたうえで教職を目指そうとしています。この進路選択をより有効にするために大学との連携の強化を図りたいと考えております。

幼児教育保育科では、幼児教育保育科の卒業生が専攻科保育専攻に進学する初年度を迎え、さらに来年3月には保育士の資格も取得した卒業生を世に送り出す最初の年でもあります。幼稚園教諭の免許に加えて、念願であった保育士の資格も取得できることで卒業後の活躍の場が広がることから学生達に大きな期待を寄せています。



体育科長
すがわら いさお
菅原 勲

『学生の目線に立ったカリキュラム改訂を検討しています』

今後については、平成22年度を目標にカリキュラムを改訂するべく、検討の段階に入っています。体育科の学生の9割近くが学部へ編入学していることから、学生の負担を軽減するため、将来は他大学との単位互換について検討を行います。実技科目については、必修・選択の棲み分け、種目の検討を行い、スリムで履修しやすいものに再編していきたいと思っています。また、国際交流実習、体験学習等についても、今までに一定の成果をあげてきていますが、学生の要望に応えた有益なものとするため、実施方法、研修地などについて精査し、より充実させていきたいと考えています。本当にスポーツを愛し、自らも何らかのスポーツをやりたい。そういう学生を歓迎します。そして、スポーツで汗をかいたように、社会に出てからも汗をかいて行動できるような人材に育てて欲しいと思います。



幼児教育保育科長
さかい けん
坂井 元

『本学短大の特色を活かしたさらなる魅力づくりを』

平成18年4月に改組された幼児教育保育科は、本年、改組後初の卒業生を専攻科保育専攻に送り出しました。新たな取り組みが完結する最終年度であり、学生達には保育士に必要な知識・技術の更なる向上を期待しています。

これからも本学短大の特色を活かした魅力づくりをさらに進め、他の短大との差別化を図り、入学者を確保していきたいと思っています。運動に理解があり、かつ健康面に配慮できることは本学短大の大きなセールスポイントであり、なおかつ実習先の先生方からも明るく活発な学生が多いと評価して頂いていることは嬉しい限りです。

昨今、幼稚園教諭、保育士には保護者支援まで含めた資質が求められており、ますます社会との関わりが重要になっています。専門分野ばかりでなく、広く世の中の動きにも関心を持ち、勉学、実習に励んで欲しいと思います。

専攻科保育専攻科長（兼務）

『専攻科保育専攻の初年度に期待したい』

幼保一体型施設「認定こども園」の展開に見られるように、幼稚園教諭と保育士の資格の両方取得させることは、時流にマッチした取り組みと言えます。

本年度は専攻科保育専攻として学生を迎える初年度であり、基本的には設置時に厚生労働省に提出したカリキュラムを踏襲していきますが、その後も議論を重ねた結果、一部では新しい試みも取り入れていきます。「幼児安全法」の認定講習、ベビーシッターの資格取得、ゼミ形式の授業展開がその主なもので、特にゼミでは、福祉・ボランティア、健康、音楽や遊び、メディアなどのテーマを設け、掘り下げていく予定です。

幼児教育保育科と併せて3年間という余裕を持った期間で、きめ細かな授業、実習、生活指導を行うことで、相当な支援ができる体制が整ったのではないかと自負しています。



図書館長
とみ た ゆきひろ
富田 幸博

『図書館は大学の広告塔。新しい情報の発信基地としていっそうの充実を』

図書館は、充実した蔵書をもとに、現在も多くの学生に利用されています。新しい東京・世田谷キャンパスが完成し、施設も改善されることになれば、ハード、ソフトともさらに充実し、今まで以上に、学内・外の要望に応えられるようになります。図書館をはじめ附属機関は、いわば大学の広告塔です。スポーツ関係の蔵書、研究資料の質の高さについては、社会から高い評価を得ています。また地域の方々への開放も含めて図書館の一般開放は、大学の社会貢献の時代を迎えて、本学の優位性をPRすることにもなるでしょう。

学生のみならず、就職活動の際に夜遅くまで利用した、非常に勉強しやすい場所だったと好評を得ています。今後とも、利用者アンケートを継続し、利用者の声に積極的に耳を傾けながら、よりよい施設にしていきたいと思っています。

日体大新執行部からのメッセージ



体育研究所長
やま だ たもつ
山田 保

『新構想を踏まえ体育研究所の様々な可能性を検討しています』

11の大学改革構想にある総合スポーツ科学研究センター構想の実現を第一としていきたいと考えております。従来は先生方が個々の研究のために体育研究所を利用するスタンスでしたが、これからは大学としての研究テーマを提示して、それについて専門の先生方に関わって頂くという形も一つの方向性であろうと思います。当然そのテーマは現場に役立つ研究であることが重要で、体育・スポーツの日体大として今のスポーツ界で担うべき課題を追求していくことになるでしょう。

また、新しい東京・世田谷キャンパスが完成すれば、研究環境の整備も必要になってくるので、学部生・大学院生・研究者に対する情報の提供、カンファレンス等による研究成果の発信なども一層充実させていきたいと考え、地域・社会貢献活動も含め体育研究所の様々な可能性を検討しています。



スポーツ・トレーニングセンター長
ふな と かすお
船渡 和男

『競技力向上のためにスポーツ・トレーニングセンターを積極的に活用して欲しい』

東京世田谷キャンパス再開発が進み、将来的には総合スポーツ科学研究センターにおけるトータル・トレーニング・サポート(総合的競技力向上支援)が構想されていますが、現状でも出来得る限り、学生に中身の濃いサービスが提供できるよう取り組みを続けています。

高校生の発育発達段階を経て競技力が確実に向上する大学時代に、充実したトレーニングを行うことは非常に重要です。スポーツ・トレーニングセンターでは新入生スポーツテストの結果を集計しフィードバックしていますので、大いに活用して欲しいと思います。また、「トレーニングセンター・カンファレンス」を年2～3回実施し、トレーニングや合宿等を行う上での実践的な留意点をレクチャーしています。今後も、ドーピング、水分摂取、増量・減量といったアスリートとして必須の知識を取り上げていきますのでぜひ参加してください。



健康管理センター長
おの の まこと
大野 誠

『はしか、メンタルケア等、現代の健康問題に万全の取り組みを』

昨年大流行した「はしか」の問題ですが、幸い本学では発症者は1桁にとどまり、もちろん大学を閉鎖する事態には至りませんでした。健康管理センターでは、学外実習や合宿などが多い本学の特質を考慮して、以前より入学者全員に感染症と予防接種の調査を徹底してきましたが、この事前調査が功を奏したと思っております。

また近年、メンタル面でのカウンセリングの位置づけも重要になってきました。これについては、本学のみならず全国の企業・学校などで大きな課題となっており、引き続き学生生活課などと連携して対応していきたいと考えております。

さらに、新しい取り組みの1つとして、平成20年4月から特定健診・特定保健指導が始まり、定期健康診断で腹囲の測定など内臓脂肪の蓄積に着目した検査項目が導入されます。教職員の中にも、かなりメタボリック症候群やその予備群が発見されるのではないかと危惧されますが、教職員の健康管理に役立てたいと考えております。



寮監長
たか だ りょうへい
高田 良平

『日体大の伝統を担う寮生達との出会いが楽しみ』

昔の話になりますが、私も学生時代、学生寮をよく訪れていました。当時は木造だった深沢寮で寝食を共にし、クラブの垣根を越えて交流を深め、友情を育んでいました。今は学生気質や寮の様子もだいぶ変わってきていると思いますが、寮における集団生活が、社会に出てから役立つ貴重な経験の場であることに変わりありません。可能な限り、寮監長が週1日は男子寮に泊まるなどして、学生と触れ合うチャンスを積極的に作り、「挨拶」「感謝の心」の大切さ、そして日体大の良き伝統を伝えていきたいと思っています。また、本学にはオリンピック等のメダリストをはじめ著名な先生方が数多くいらっしゃいますので、機会があれば寮にお招きして講演して頂けるような企画も考えています。寮監長は管理・監督する立場ですが、学生諸君から学ぶことも多々あると思いますので、非常に楽しみにしております。



口野 武史

(体育学科・4年)



日本陸上競技界が世界との差をもっとも感じさせられてきた中距離部門に期待の選手が現れた。800mでは現在、日本のトップレベルへ登り詰めた口野君。飄々としたいわゆる“イマドキ”の姿からは想像できないストイックな言葉の連続に驚かされる。周囲が期待感を高める中で口野君の心境を聞いた。

—まずは口野さんが陸上競技を始めたきっかけを教えてください。

口野●父親が陸上競技をしていた影響で、自分から自然と競技を始めていたように思います。陸上競技以外にも水泳やソフトボールをしていたこともありますが、中学時代からは陸上競技一本になりました。中学時代は現在の800mよりも1500mのレースに出ることが多かったです。

—当時から全国レベルの成績だったそうですが。

口野●確かに中学時代はジュニアオリンピックに出場するなど、成績も全国上位になることが多かった。しかし、高校時代になると中学時代には勝っていた相手に負けてしまうことも少なくありませんでした。正直、伸び悩んでいることで苦しんだ時期もありました。

—その状況の中で日体大進学を選びますが。

口野●陸上競技自体をやめてしまおうかと思ったことも正直あったのですが、自分が最大限努力をしたかと言われると、まだ疑問が残っていたのも事実です。ですから負けたままでは終われない、もう一度競技を極めたい決心から、もっとも集中できる環境である日体大を進学先を選びました。今思うとそれだけ陸上競技が好きだったということだったのでしょね。

—大学生活のお話を聞かせてください。

口野●特に関東と関西の生活習慣の違いも感じませんでしたし、合宿所生活も思ったほど辛くも感じたことはありませんでした。ただ海浜実習は厳しかった(笑)。でもあれで鍛えられました。あとクラスメートのバレーボール部やレスリング部の選手たちの体格の良さには最初は驚かされましたね。

—陸上競技の魅力について教えてください。

口野●色々な人からのサポートを受けて練習に取り組むのですが、レースになれば最後は自分一人しか頼れる存在がいなくなります。そこで自分が強さを見せられるか、自分に打ち克てることができるかという点が最高の面白さではないでしょうか。さらに記録という明確な数字での差が出るという、言い訳はきかないところも魅力です。それを乗り越えて、勝利したときには陸上がやめられなくなります。

—今後の競技の中での目標を教えてください。

口野●日本の中距離のレベルは世界と比べてもまだ差があるのが実状です。ヨーロッパの選手たちのレースはとにかくタフです。ですからその差を少しでも埋めて世界で通用する選手になりたいです。もちろん五輪も目標ですが、その前にある一つひとつのレースで良い結果を出すことが何よりも大事です。僕は“不言実行”タイプだと自負していますので、着実に自分自身が納得する結果を追い求めていきたいです。

—最後に日体大を目指す後輩たちにエールを送ってください。

口野●自分次第で良くも悪くも過ごせる4年間あるいは2年間が準備されている環境です。自由な環境の中に、厳しさもあるのが日体大の良さ。自分の人生が大きく変えられる瞬間があると思います。自分もそうでしたから。チームメイト、友人にも恵まれる、素晴らしい場所ですね。



陸上競技界のホープは不言実行。日本一の負けず嫌い。

PROFILE

口野 武史(くちの たけし)

1986年・大阪府生まれ

身長/173cm、体重/59kg

私立清風高校出身。

主な戦績

07年日本学生陸上競技選手権大会

800m 1位 1:49.55

07年日本陸上競技選手権大会 800m

3位 1:50.28

足のサイズは26.5cm。休日は買い物や

釣りに出掛けることが多い。最近の悩み

は「丈ももがなくて、履きたいパンツが似

合わない」とのこと。陸上競技を続けて

いく中で大切にしているモットーは「しっ

っかりとオフを取ることで。メリハリがなけれ

ば良い成績は上げられない」。

中野 希望

(体育学科・4年)



フランスが競技発祥の地であるフェンシング。そのフェンシングで現在、日本の頂点に立っているのが中野さんである。競技を始めたときから目標は日本一と高いハードルを自身に課し、それをクリアする信念の人。次の目標は世界の頂点。そんな中野さんにフェンシングの魅力について聞いた。

—昨年インカレと全日本選手権を制覇、まずはおめでとうございます。中野●ありがとうございます。フェンシングを始めたときに志した日本一になることができて最高の気分でした。しかし、すでに過去のことになることなく現在は次の目標へ向かっています。

—競技を始めたときから日本一になることを目標としていたのですか？中野●中学時代までは親が指導していた剣道と部活でソフトテニスをしていたのですが、高校入学時にフェンシングの面白さを体験したことが競技生活の始まりでした。両親には「絶対に日本一になる」と宣言したことを覚えています。多くの方の支えがあって、最初の目標を達成できたことに感謝したいと思います。

—高校一年次には年代別の日本代表に選出されたそうですね。中野●そうですね、あの時に日の丸を背負って戦う重みを実感したことがさらに競技に対するモチベーションを上げてくれたと思っています。高校時代の練習はとにかくきつかったのですが、あの頃身に付けた技術が基礎となり今の自分の戦績にもつながっています。

—フェンシングの魅力を教えてください。中野●相手との駆け引きでしょうね。もちろん試合前に作戦を立てますが、試合が始まってからの瞬時の判断を決めることが多い競技ですので、的確な判断力の有無がカギとなります。その勝負に勝ったときの快感を味わってしまうと、また次の試合に向けての意欲が高まります。

—大学進学の際に日体大を選んだ理由は？中野●高校時代に一緒に海外遠征した先輩が日体大生で、大学の様子などを聞いていたことが進路選択に大きく影響しました。将来は保健体育の教諭を目指したいこともあって、迷わず日体大進学を決めました。

—大学入学後は順調に実力を付けたことで、海外遠征も多くなったそうですね。中野●一年間で三〜四ヶ月は海外遠征に出ています。フェンシングがさかんなヨーロッパではほとんどの国で試合をしました。ヨーロッパでの試合は日本では考えられないくらいお客さんがいて、とにかく盛り上がっています。でも一番、印象に残っている国はオーストラリアでしょうか。気候や現地の人たちの優しさにはとても感動しました。

—日本のトップ選手として今後、海外の選手と試合をする際に、どんな課題がありますか？中野●スピードも技術もまだまだ足りない部分が多いと思います。でも次の目標は世界一です。是非、世界との差を埋めたいですね。北京五輪出場も目標ですが、その次のロンドン五輪、東京が招致している2016年の五輪も視野に入れ努力を続けていきたいです。

—最後に今後、日体大を目指す後輩たちにメッセージをお願いします。中野●好きなことをもっと好きになれる環境ではないでしょうか。さらに校風がとにかく明るい(笑)。それが自分には合っていました。将来は自分の子どもにも是非、進学させたいと思うくらいです。ですから目標を持って、自分を進歩させたいと思う方には最適な場所だと思います。

日本一の次は世界一。大和撫子、世界を突く

PROFILE

中野 希望(なかの のぞみ)
1986年・福井県生まれ
身長/172cm
福井県・県立福井武生商業高校出身。
主な戦績
07年全日本フェンシング選手権大会
エベ個人 優勝
07年全日本学生選手権大会
エベ個人・団体、フルレ団体 優勝
海外遠征でもほとんどコンディションを崩すことがないその秘訣は「どこでも寝られること」。将来は地元へ戻って、後進の指導にあたり「フェンシングの競技人口をもっともっと増やしたい」という目標を持っている。

多くの人が
健康であると感じ続けられる。
その一つの手段として
運動が関わっている。

社会体育学科

小山内 弘和 助教



弘前大学3年次のねぶた祭り。所属していた剣道部の友人と。写真右端が小山内先生。

昨年の4月から、大学院健康科学スポーツ医科学系の研究室で、大学院の授業のサポートや院生への助言を行っています。具体的には、実験機材の管理や院生にパソコンの使い方やデータの作成方法などをアドバイスしています。

私は子供のころから運動が大好きでした。小学校から大学まで、何らかの運動をしてきました。弘前大学教育学部に入学後、さらに運動や体育・スポーツに関する勉強がしたいと思い、2年次から保健体育科の戸塚学先生(日体大卒業)のゼミで運動生理学について学びました。運動生理学を勉強していく中で、筋肉の収縮に関する記述を目にしました。自分がからだを動かそうとすることに、脳から電気が神経を流れる。その信号により、筋肉の手前で化学物質(伝達物質)が放出される。その化学物質が筋へ信号を伝達することにより筋肉が反応して収縮する。自分が考えるのとはほぼ同時にそれらのことが体内で行われている！少し変わっているのかもしれないませんが、このとき大きな衝撃を受けたことは今でも鮮明に覚えています。

人間の体、特に運動についてさらに学びたいと、弘前大学を卒業後、日体大の大学院に進学しました。初めて日体大に足を踏み入れた時、日体大が特別な大学であると感じることが多々ありました。例えば、テレビの中で活躍していたスポーツ選手が、校内を普通に歩いている。ちょっとしたヒーローに会うような興奮を覚えました。また、実験の被験者として手伝ってくれる学生のスポーツの経歴と輝かしい実績にも驚かされました。逆に、「運動ができない」ということがよく分からないという学生と出会ったことも、ある意味では特別なことと感じました。大学院在学中は先生や先輩の実験の験者や被験者をしてながら、実験の仕方や論文の書き方、そしていつの間にか生活の仕方までも学んできたように思います。昨年末には、中野昭一名誉教授、伊藤孝教授をはじめとする多くの方々のご助力のお陰で、博士号を取得させていただきました。

私の研究のテーマは「運動と自律神経系の関係」

についてです。例えば、スポーツや一般的な運動は随意的に行うことができますが、これとは別に、人の体の中では心臓のように不随意に絶えず働いている器官や組織があります。それらを無意識のうちには調節しているもののひとつが自律神経系です。自律神経が個々のあらゆる状態に敏感に反応し、調節してくれることにより、私たちは「生命」を保っていることができるのです。

しかしながら、これは通常ならば誰もが生まれもったくごく当たり前の機能です。しかし、その当たり前が当たり前ではなくなることによって健康を害すということも生じてきています。この自分では調節できない大切な機能は、運動による刺激によっても変化します。その中で、運動による身体的な刺激を調節することにより、自律神経系の反応が異なることが分かってきました。このことを多くの人々に認知していただき、運動、体育・スポーツの可能性や重要性を理解していただけたらと思っています。

「健康」に関する考え方は個々の人々の中にあるものです。個々の健康観の中にあつても、それがすべてではないにしろ、身体的な健康は自分自身の生活、さらには人生を豊かにしてくれるものであると私は考えています。その個々の人々の「健康」の維持や増進の中心的役割を果たすのが体育・スポーツである、そんな社会的ニーズの到来に的確に対応することができるよう、さらに研究を進めていきたいと思っています。



PROFILE ● おさなひひろかず

- 1972年生まれ。岩手県出身。
- 大学院健康科学・スポーツ医科学系
- 日本体育大学大学院体育科学研究科博士後期課程修了
- 体育科学博士

村上 佳宏さん

1999年3月体育学科卒業

08年北京オリンピック 近代五種日本代表決定



近代五種は、射撃(エアピストル20発)、フェンシング(エペ)、水泳(200m自由形)、馬術(障害飛越)、ランニング(クロスカントリー-3000m)を1日で行い、5種目の総合得点を競うオリンピック種目。銃刀法の関係もあり、自衛隊が警視庁に所属する以外に競技する手段がないので、国内の競技人口こそ少ないが、それでも世界トップレベルの中国や韓国の選手に迫る競技力を誇る選手がいる。その選手が激戦のアジア・オセアニア選手権を戦い抜き、北京オリンピックへの出場権を手にした村上佳宏さんだ。

「人それぞれに苦手種目、得意種目があり、その中で5種目の総合得点で勝負するのがこの競技のおもしろいところ。Aという射撃が得意な有力選手が、射撃でコケたのに苦手な馬術で取り戻して優勝するというようなこともあります。とはいっても5種目の総合力が問われるので、実力のない選手が一番狂わせを演じることもない。しかし、ある一定の水準以上の選手であれば誰にでもチャンスがある、ということです」。

村上さんは、5歳からはじめた競泳を大学でも続けようと、日体大へ進学する。

「大学時代の競泳では、インカレには出られても、全日本までは出られない。ごく平凡な選手でした。今思えば、記録が伸び悩んでいたのは自分自身の練習に対する意識が低かったからだと思いますね。」

日体大卒業時に、「身体の線がしっかりしていて、筋肉のバランスがいい」と適性を見抜いた、当時水泳部の監督だった浜田元輔准教授のすすめで近代五種へと転向。

「水泳とは大学を卒業しても生涯付き合っていくつもりでしたが、プラスαの種目がある近代五種に興味を湧き、挑戦してみようと自衛隊体育学校を志しました。今は競技だけに集中できる環境ですが、この体育学校との契約は1年ごとの更新で、“世界で戦えない”と判断されると次の年からは隊の任務に戻る決まりになっています。ここにいる選手達のモチベーションは凄まじいものがあります。全体での練習は1日3~4種目行いますが、私は早朝と夜間の自主練習で不足部分を補っています。」

04年のアテネオリンピックの予選では悔しい思いも経験した。

「オリンピックに出場できるのは2位まで、4種目を終えた時点で2位。最後のランで自分にプレッシャーをかけてしまい、結局6位に転落してしまいました。あのときの、後ろの選手に抜かれていく感覚と悔しさは今でも忘れません」。

最後に、北京オリンピック出場を決めた瞬間と、北京オリンピックへの意気込みを聞いた。

「予選の日がちょうど妻の誕生日だったので、何としても、と思いましたね。決まった瞬間は、家族、職場、応援してくれる皆のおかげだなあと実感しました。その恩返しの意味でも、北京での目標はセンターボールに日の丸を掲げること。近代五種は最後まで何が起こるかわからない競技なのでチャンスはあるはず。しっかりと結果を出して、一人でも多くの人にこのスポーツの存在を知ってほしいという思いは強いですね」。

(3月5日、自衛隊体育学校にて)

無名な競泳選手だった自分を五輪代表に育ててくれた。その「近代五種」を世に知らしめるためにも戦う。



写真提供:フォート・キシモト

PROFILE

(むらかみ・よしひろ) 1976年静岡県生まれ。東京オリンピックマラソン銅メダリストの円谷幸吉氏など多数の五輪選手を輩出した埼玉県朝霞市の自衛隊体育学校に所属、海上自衛隊三等海尉。5歳から水泳をはじめ、1988年のソウルオリンピックで鈴木大地選手の金メダル獲得を見て、オリンピックへの憧れを抱く。大学卒業と同時に近代五種に転向。2006年全日本選手権優勝。2007年アジア・オセアニア選手権5位に入り、北京オリンピック出場が内定する。自衛隊体育学校で知り合った愛妻の手作り炊き込み五目おにぎりを試合前に必ず食べるという。得意種目は射撃、フェンシング、馬術。



クラブ名	大会名	結果	氏名
■アーチェリー	全日本ターゲット選手権	男子コンパウンド 優勝 男子リカーブ 優勝 女子リカーブ 4位 日本スホーツ賞・優秀選手 女子5位	島田隆之(2年) 山本博(日体大准教授) 新田智弘(2年) 早川浪(3年) 早川浪(3年)
■アメリカンフットボール	関東大学リーグ 日経・中央ドリーム大会 国体記念杯	男子3位 女子75キロ超級 優勝 男子70キロ超級 ベスト8 女子60キロ超級 ベスト8 優勝	守美穂子(3年) 比嘉真理子(1年) 美濃田拓紀(4年) 東谷真典(1年) 小笠原隆(2年)、宮内夢(4年)、小野口友絵(3年)、中谷倫紀(2年)、杉山麻衣子(2年)
■空手道	関東学生体重別選手権	男子70キロ超級 優勝 女子60キロ超級 優勝	中嶋敬吾(日体大研究員) 中嶋敬吾(日体大研究員) 橋本伸悟(2年) 川崎みなみ(3年) 小松美樹(3年) 小川絵里(2年) 川崎みなみ(3年) 藤村祥子(2年) 橋本伸悟(2年、世界選手権アジア地区予選代表決定)
■剣道	全日本学生剣道	男子個人 2位 女子個人 3位 男子団体 優勝 女子団体 優勝	春原優衣(2年) 市川智也(3年)、一ノ瀬正範(4年)、小山高志(3年)、勝田誠二(2年) 小山高志(3年)
■サッカー	関東大学女子 全日本大学女子	女子大回戦 3位 男子リレー4×10km 2位 男子30kmリレー 3位 男子40キロリレー 3位 女子大回戦 3位	星瑞枝(4年) 星瑞枝(4年) 星瑞枝(4年) 星瑞枝(4年) 星瑞枝(4年)
■スキー	志賀高原アルペンレース 全日本学生選手権 全日本選手権距離 全日本選手権アルペン技術系	男子個人 ベスト8 男子個人 中級級 優勝 男子個人 重級級 優勝 男子個人 無差別級 優勝 男子団体 2位(日本) 男子個人 2位	藤村祥子(2年) 岡島由香(4年)、相浦花梨子(3年)、武井洋子(3年)、黒澤文恵(4年) 藤村祥子(2年)、川崎みなみ(3年)、小松美樹(3年) 中嶋敬吾(日体大研究員) 橋本伸悟(2年) 中嶋敬吾(日体大研究員、世界距離別選手権代表決定) 上條有司(3年)、高橋智宏(3年)、田口和征(2年)、小松洋人(4年) 中山裕大(2年)、橋本伸悟(2年)、中嶋敬吾(4年)
■スケート	全日本距離別選手権 W杯スケート 真駒内選抜競技会	男子1000メートル 2位 男子1500メートル 2位 女子3000メートル 5位 女子1000メートル 5位 女子3000メートル 2位 総合 3位 女子5000メートル 2位 女子1000メートル 3位	中嶋敬吾(日体大研究員) 橋本伸悟(2年) 川崎みなみ(3年) 小松美樹(3年) 小川絵里(2年) 川崎みなみ(3年) 藤村祥子(2年) 橋本伸悟(2年、世界選手権アジア地区予選代表決定)
■アイスホッケー	全日本学生ショートトラック個人選手権 松本浅間選抜競技会	男子個人 2位 女子団体総合 5位 男子100メートル 3位(世界スプリント代表決定) 男子200メートルリレー 3位 女子大学対抗得点 3位 女子2000メートルリレー 3位 女子団体追い抜き 優勝 男子総合 1位 男子2000メートル総合得点 53位 男子最終戦 1000メートル総合得点 32位	中嶋敬吾(日体大研究員) 上條有司(3年)、高橋智宏(3年)、田口和征(2年)、小松洋人(4年) 中山裕大(2年)、橋本伸悟(2年)、中嶋敬吾(4年)
■相撲	全国学生選手権大会 全国大学選抜高知大会 アジア選手権大会	男子個人 2位 男子個人 ベスト8 男子個人 優勝(日本) 男子個人 中級級 優勝 男子個人 重級級 優勝 男子個人 無差別級 優勝 男子団体 2位(日本) 男子個人 2位	伊東良(3年) 宮本泰成(3年) 宮本泰成(3年)、立野卓(2年) 伊東良(3年) 立野卓(2年) 宮本泰成(3年) 宮本泰成(3年)、立野卓(2年) 宮本泰成(3年)
■ソフトテニス	関東大学リーグ	男子 5位 女子 優勝	藤原真央(日体大助手)
■ソフトボール	ショーアップ東京インドア全日本ソフトテニス大会 東京都大学リーグ 関東大学選手権	男子 2位 男子優勝(早稲田と同率) 女子優勝(東京女子体育大と同率)	
■体操競技	全日本体操選手権	男子種目別・ゆか 優勝、跳馬 優勝 個人総合 3位 男子種目別・ゆか 2位 個人総合 6位 男子種目別・あん馬 2位 男子種目別・あん馬 7位、つり輪 7位 個人総合 7位 男子種目別・つり輪 優勝 男子種目別・跳馬 2位 男子種目別・鉄棒 優勝 女子団体総合 3位	岡村康宏(3年)、沖口誠(4年)、太田晃輔(3年) 寺尾尚之(2年)、内村航平(1年)、山室光史(1年) 内村航平(1年) 青山人士(4年) 山室光史(1年) 岡村康宏(3年) 齊藤優佑(1年) 太田晃輔(3年) 廣瀬龍(4年)、水島舞夏(4年)、溝口絵里加(4年) 垣谷真理子(2年)、田中理恵(2年)、柴田有香(4年) 小川優美(1年) 山室光史(1年)、内村航平(1年) 沖口誠(4年) 内村航平(1年) 水島舞夏(院2年) 水島舞夏(院2年) 沖口誠(4年) 寺田望七(4年) 寺田望七(4年) 寺田望七(4年)
■卓球	北京国際招待 (北京五輪プレ大会)	女子種目別・跳馬 6位 男子団体総合 2位(日本) 男子種目別・ゆか 優勝、跳馬 3位 男子種目別・ゆか 7位 日本スホーツ賞・優秀選手 男子個人 3位	古財和輝(4年)
■トランポリン	カタール国際(W杯シリーズ) 世界選手権	男子種目別・ゆか 2位、跳馬 2位 女子シנקロロイスト 6位 女子チーム 4位 男子17歳以上 優勝 女子 5位	中野希望(3年) 山室光史(1年) 中野希望(3年)
■バスケットボール	全日本トーナメント選手権 関東大学リーグ	男子 6位	中野希望(3年) 中野希望(3年)
■バドミントン	関東大学学生選手権 全日本学生選手権	男子団体 優勝 男子シングルス 優勝 女子団体 2位 女子シングルス 優勝 女子ダブルス 優勝 男子シングルス 5位 女子ダブルス 5位 男子シングルス ベスト8 女子混合ダブルス ベスト8	長谷川和也(1年) 中野希望(3年) 熊谷美香(4年) 正生未弥菜(3年) 中野希望(3年)
■バレーボール	全日本大学選手権	男子優勝 スバール賞・サーブ賞・レシーブ賞 セッター賞 監督賞	伊東可奈(4年) 伊東可奈(4年)、内藤真実(3年) 遠藤大由(3年) 遠藤大由(3年)、山田和司(3年) 遠藤大由(3年) 内藤真実(3年) 最優秀選手賞・ブロック賞・相沢寿(4年) 山室光史(3年) 佐藤弘樹(4年) 藤田淳博(日体大教授) 優秀選手・友利彬彦(4年)、石川出(2年)、中野昭人(2年)
■ハンドボール	全日本学生選手権 全日本総合選手権	男子 3位(湯水梨華と同率、ベスト4大学勢12年ぶり) 女子フルール個人 2位 女子エベ個人 優勝 女子エベ団体 優勝 男子サーバル個人 優勝 男子サーバル団体 優勝 女子フルールエベサーバル団体 優勝 女子フルール個人 優勝 女子サーバル個人 2位 女子サーバル個人 3位 女子エベ個人 優勝 女子エベ団体 優勝	中野希望(3年) 中野希望(3年)
■フェンシング	関東大学学生選手権	男子 3位(湯水梨華と同率、ベスト4大学勢12年ぶり) 女子フルール個人 2位 女子エベ個人 優勝 女子エベ団体 優勝 男子サーバル個人 優勝 男子サーバル団体 優勝 女子フルールエベサーバル団体 優勝 女子フルール個人 優勝 女子サーバル個人 2位 女子サーバル個人 3位 女子エベ個人 優勝 女子エベ団体 優勝	藤長和也(1年) 中野希望(3年) 熊谷美香(4年) 正生未弥菜(3年) 中野希望(3年)
■野球	首都大学野球 関東学生リーグ	男子 4位 男子 優勝 女子 優勝	表彰選手 遊撃手・津野拓真(3年)
■ラグビー	関東大学対抗戦	男子 6位	口野武史(3年)
■陸上競技	関東大学対抗戦 日本選手権リレー大会	男子600M 優勝 女子400メートルリレー 3位 男子1600メートルリレー 優勝 男子一般 大学20キロ 2位 男子 2位	山本陽平(2年) 野口拓也(1年)、森賢大(2年)、野口功太(3年)、出口和也(1年)、永井大隆(3年)、石谷慶一郎(3年)、谷野琢弥(1年、区間賞)、北村聡(4年) 野口拓也(1年)、北村聡(4年)、森賢大(2年)、永井大隆(3年)、久保岡諒司(2年) 石谷慶一郎(3年)、谷野琢弥(1年)、高橋宏弥(4年)、野口功太(3年)、出口和也(1年) 北村聡(4年) 北村聡(4年) 北村聡(4年)、世界クロスカントリー代表決定) 野口拓也(1年)
■陸上競技(駅伝)	元日競歩 全日本大学対抗選手権	男子総合成績 12位、(往路14位)	平尾晴晴(4年) 松本隆太郎(4年) 成瀬一彦(3年) 田中悠一(4年) 那口祐洋(3年) 齋川哲克(4年、最優秀選手賞) 櫻井紀宏(4年) 富岡直希(4年) 志土地球太(2年) 齋川哲克(4年) 湯元健一(日体大助手) 櫻井紀宏(4年) 松本隆太郎(4年) 成瀬一彦(3年) 那口祐洋(3年) 那口祐洋(4年)
■レスリング	東京都対抗男子駅伝 千葉県国際クロスカントリー 福岡国際クロスカントリー 日本学生・アマゾン選手権 全日本大学グレコローマン	男子3位(兵庫)、7区区間最高 男子12000メートル 4位 男子シニア10キロメートル 6位(日本人3位) 男子 3位 男子大学対抗 優勝 男子55キロ級 2位 男子60キロ級 2位 男子66キロ級 2位 男子74キロ級 2位 男子84キロ級 優勝 男子96キロ級 優勝 男子120キロ級 3位	山本陽平(2年) 野口拓也(1年)、森賢大(2年)、野口功太(3年)、出口和也(1年)、永井大隆(3年)、石谷慶一郎(3年)、谷野琢弥(1年、区間賞)、北村聡(4年) 野口拓也(1年)、北村聡(4年)、森賢大(2年)、永井大隆(3年)、久保岡諒司(2年) 石谷慶一郎(3年)、谷野琢弥(1年)、高橋宏弥(4年)、野口功太(3年)、出口和也(1年) 北村聡(4年) 北村聡(4年) 北村聡(4年)、世界クロスカントリー代表決定) 野口拓也(1年)
■チアリーダー	全日本学生選手権	女子DIVISION1 2位 女子DIVISION2 2位	バーンディー(Aチーム) JV1(Bチーム)
■新体操	全日本選手権	女子個人総合3位、クラブ・リボン優勝、ロープ2位、フープ3位	村田由香里(院2年) MASATSURU(世界大会出場決定) MASTERPIECE
■ダブルダッチ	ダブルダッチライトジャパン HOLIDAY CLASSIC(世界大会)	混合優勝	



平成19年度「秋・冬季クラブの主な大会成績」

Beijing 2008 Olympic Games -北京オリンピックへの挑戦-

北京オリンピック出場決定情報 (2008.3.25現在) 写真提供:フォト・キネト



村上 佳宏(むらかみ よしひろ) 近代五種 1999年体育学科卒
 早川 浪(はやかわ なみ) アーチェリー 体育学科4年
 笹本 陸(ささもと こと) レスリング(グレコローマン60kg級) 2000年体育学科卒
 菅原 智恵子(すがわら ちえこ) フェンシング(フルール) 1999年体育学科卒
 松永 共広(まつなが ともひろ) レスリング(フリー55kg級) 2003年体育学科卒
 池松 和彦(いけまつ かずひこ) レスリング(フリー66kg級) 2007年大学院修了
 松本 慎吾(まつもと しんご) レスリング(グレコローマン84kg級) 2000年体育学科卒



TOPICS 平成20年度 キャリア支援講座(予定)

キャリア支援センターは、みなさんの学生生活の延長線にある「就職」を力にすることが、平成20年度も全力でバックアップしていきます。1年次から広く職業観などを養う講座を開講していますので、多くの参加をお待ちしています。

全職種共通	
第1回就職ガイダンス	就職活動のスタートライン!! 社会人へのファーストステップ講座。
自己分析	社会人になる前に自分を振り返り、自己PR、志望動機につなげる。
マナー基礎講座	社会人としてのマナーの基礎を知る。
先輩の就活報告会	教員、企業、公務員内定者によるパネルディスカッション
クラブ・サークル別キャリアデザイン講座	クラブ、サークル加入者を対象に働くこと、仕事さがし、就職活動の方法など全般的に取り組む。

教員関係	
都道府県別教員採用試験対策講座	各都道府県別教員採用試験の採用状況および試験内容の留意点
「教員になるには」対策講座(年2回)	OB教員からの教員になるための心構えと、現役合格者の体験談
「何か何でも教員!」対策講座(年2回)	教員採用試験情報及び資料配布、カリスマOB教員の現場での体験談
筆記試験対策講座(教職・専門)	教員採用試験対策教職教養・専門教養編講座(外部講師)
2次試験対策	自己PR・論文の書き方・集団討議・模擬面接・模擬面接
教員採用試験模擬テスト(年5回)	教員採用試験模擬テスト(一般・教職教養、専門教養、論文)
教員採用試験のための勉強会	教員採用試験のための勉強会(講師:教職教育Ⅲ研究室教員・非常勤講師、外部講師)
宿泊研修(春季・夏季・秋季・冬季)	教員採用試験現役合格のための宿泊研修(講師:教職教養研究室、OB校長)
「小学校認定資格試験」対策講座	小学校認定資格試験対策講座
学生アドバイザーによる合格体験コーナー	現役合格した学生からアドバイスを受けられる。

企業関係	
一般常識模擬テスト	一般常識テストを行い総合評価により自分の実力を知る。
就職情報サイト活用講座	サイトの登録の仕方、フリーメールの取得を実際に内容を確認し登録をする。
エントリーシートの書き方講座	自己分析に基づき、自分らしい履歴書、エントリーシートの書き方について勉強する。
各企業業界研究(仕事さがし)	各業界の(食品、メーカー、不動産、スポーツクラブ、旅行関係、など)人事担当者より業界について説明いただき、自分の適性と照らし合わせる。
模擬面接講座(個人・集団)	面接試験を想定して、模擬面接(個人・集団)を体験する。
企業集中研修講座(基本編・実践編)	企業就職活動の集中研修(自己分析、自己PR、一般常識、面接など、基礎編と実践編の2回の研修を行う)
企業一般常識試験対策講座	企業就職活動における、一般常識試験の対策講座を行い能力を高める。
未就職者のフォローガイダンス	就職未決定者に関するフォローガイダンスを行いサポートを行う。

公務員関係	
公務員採用試験直前の説明会	(神奈川県警察) 各公務員採用担当者に試験(東京消防庁) に臨む心構え及び願書記入などについてご指導いただく。(警視庁) (防衛省・自衛隊)
公務員採用試験二次対策(面接)	公務員採用試験一次合格者及び希望者を対象とした面接講座
公務員「教養試験対策」講座	公務員試験対策基礎編・実践編
公務員業種別説明会	警察官、消防官、自衛官の採用担当者による説明会
公務員全国模擬試験(年4回)	警察・消防・地方上級(教養)
現役合格者による報告会	現役合格した学生からアドバイスを受けられる。

短大	
～ 体育科 関係 ～	
就職活動合格体験談	業界研究・学生合格体験談
マナー講座	マナー・化粧の仕方等、模擬面接
未就職者フォロー講座	就職未決定者に関するフォローガイダンスを行いサポートを行う。
～ 幼児教育保育科 関係 ～	
就職活動合格体験談	業界研究・学生合格体験談
マナー講座	マナー・化粧の仕方等、模擬面接
公立保育士対策講座	30コマ講座、公立保育士就職のための試験対策講座(教養科目中心)
未就職者フォロー講座	就職未決定者に関するフォローガイダンスを行いサポートを行う。
～ 福祉 関係 ～	
社会福祉士国家試験対策講座	社会福祉士国家試験対策講座(社会福祉学研究室及び外部講師)

TOPICS 卒業生向け Webサービスが運用を開始しました

本学ではマイクロソフト株式会社との提携により卒業生向けWebサービスの無償提供を開始しました。

同社が掲げる教育機関向けトータルICTソリューション「エデュステーション」のひとつであるWindowsLive™@eduを採用することで、本学と関係の深いステークホルダーとの関係がより良いものに発展することが期待されます。

今年3月の卒業生に対しては、学位記、修了証書の授与とともにWebサービスの利用案内をお配りしています。また、既に卒業された方々へのWebサービスの提供についても、順次行う予定です。本学公式ホームページにてお知らせします。



このWebサービスが卒業された方々のコミュニティの活性化の一端を担い、また本学との関係の維持、向上を図ることへの大きな布石となることでしょう。



TOPICS 「第48回体育研究発表実演会」報告

「体育研究発表実演会」は『漲力(みなぎる)』をテーマに、東京大会を皮切りに、香川県・岡山県・広島県・山口県で実施致しました。本学の一流の演技と日頃の研究成果をひと目見ようと各会場の観客席は埋め尽くされ、大変な盛り上がりを見せました。テレビや新聞などメディアにも数多く取り上げられました。

この実演会の開催にあたり、同窓会の皆様をはじめ、多くの関係者にご協力いただきましたことに深く感謝いたします。次回の開催は2009年を予定しています。

	開催日2007年	場所	入場者数
東京大会	11.30	有明コロシアム	8,000名
	12.13	高松市総合体育館	2,300名
中国・四国大会	12.14	岡山県総合グラウンド体育館桃太郎アリーナ	3,400名
	12.13	広島県総合体育館	4,800名
	12.13	山口県維新百年記念公園スポーツ文化センター	2,200名



高等教育を取り巻く様々な環境を踏まえ、時代と社会の要請に応え得る知識基盤社会をリードする魅力ある個性豊かな体育・スポーツの総合大学を目指して構築された将来構想を確実に実現してゆく。大学全入時代を迎え、さらに体育系学部・学科が各所で増設されるなか、平成19年度に設置されたアドミッションセンターを中心として、優秀な学生確保のために継続して選抜制度の改革に取り組むとともに、積極的な広報活動の展開に努める。併せて、同じく同年度に設置されたキャリア支援センターを中心に、学生の新しい分野への就職開拓を含め、従来の教員、公務員、企業への就職を強力にサポートできる体制の確立に努める。

また、平成19年度から導入されたICT (Information and Communication Technology) 環境のさらなる整備と効率的な運用を図り、教育研究及び管理運営業務の円滑化と効率化並びに学生サービスの質の向上を図る。併せて、本学の社会的使命を果たすための取組みとして実施している様々な社会貢献活動や地域に密着した奉仕活動等の関連事業について、一層の社会的評価を得ることができるよう、さらに充実して推進する。

(1) 東京世田谷キャンパス再開の推進及びその他の施設・設備の整備

平成20年度の夏季に竣工予定となっている東京・世田谷キャンパス教育研究・学生アメニティ棟の効率的な運用方法及び適切な管理方法を構築して実行するとともに、引き続き、再開の第2期工事を遅滞なく進行させる。また、再開の進行と並行して、両キャンパスの既存施設・設備を維持管理するため、計画的に整備するとともに、継続して横浜・健志台キャンパス整備のマスタープランを検討する。

(2) 大学及び短期大学部改革の推進

大学改革に係る各構想の具現化に向け、具体的方策を立案して、順次作業を進める。今年度から進行する改正カリキュラムについては、より学生の視点に立った本学にふさわしいものとするため、継続して検証及び検討を行う。また、学生教育、学友会活動及びスポーツ局運営の機能的な融合について、競技力向上を進展させるための最優先課題として位置付けて検討する。

(3) 認証評価

平成19年度に実施した自己点検・評価結果を踏まえ、必要となる整備・改善に着手するとともに、大学においては、今年度、学校教育法第69条の3に基づき、財団法人日本高等教育評価機構による認証評価を受ける。

(4) ネットワーク環境の整備及び学生サービス向上

ICT環境の継続的整備を実行するとともに、教職員、学生、ステークホルダーが機能的かつ効率的に情報交換ができるシステムの構築に努める。また、この環境を活用して、非接触ICカード技術方式により付加価値をもった学生証を導入し、学生の利便性の向上を図る。

(5) 学生の育成と生活環境の改善

特別支援教育に向けた研修会を実施するなど、心身両面の学生教育を実施し、日本らしい学生の育成に努める。また、情報化社会の急激な進展を踏まえ、インターネット・マルチメディア教育施設設備の整備・充実を図るとともに、継続して老朽化した寮関連施設の対応を推進し、優秀な学生を確保した後の責任ある生活環境の充実に努める。

(6) 選抜制度の改革及び広報活動の推進

平成20年度入試から導入したAO入試及び同年度に種目変更を行った一般入試の実技試験について、その結果の検証を綿密に行うとともに、これらを踏まえた上で、多様でより実効性が高く、優秀な学生の確保に繋がる選抜制度の改革を継続する。併せて、オープンキャンパス等の入学促進活動や広報活動の充実を図り、全国を視野に入れた志願者確保に努めると同時に、本学の持つ独自性並びに教育研究による成果等を幅広く社会に発信する。

(7) 就職対策の充実及び専攻科保育専攻の開設

従来から強化に取り組んでいる教員採用、公務員(特に警察官及び消防官)採用、企業採用に関する各支援講座のさらなる充実を図る。併せて、今年度よりスタートする短期大学部の専攻科保育専攻の学生に対する就職支援として、積極的に保育業界を新規開拓する。

(8) 募金活動の実施

東京世田谷キャンパス再開事業は、都心にあるキャンパスとしての利便性と機能性の向上を目的とした開発計画であり、委員会を中心に体育大学としての施設充実に資するため、広く募金活動を実施する。

日本体育大学・日本体育大学女子短期大学部 地域・社会貢献活動の基本方針

(基本方針)

日本体育大学及び日本体育大学女子短期大学部による教育研究の成果等を広く開放し、地域に密着した貢献活動及び調査、企画を行うとともに、地域社会との連携・交流を通じて、教育、スポーツ、学術の振興に寄与し、もって本学の教育・研究活動の活性化を図るものとする。

(活動方針)

地域・社会貢献活動の基本方針に基づき、次のとおり活動方針を定める。

- (1) 各部局等と連携した公開講座(体力増進健康教室、各種講演会、スポーツ教室)の開催
- (2) リカレント教育
- (3) 初等中等教育に携る教員に対する体育授業研修
- (4) 近隣自治体との教育、スポーツ、学術及び文化交流
- (5) 体力測定及び健康運動実践プログラムの提供
- (6) 施設開放
- (7) 学生が主体となる地域貢献活動
- (8) 学生の社会貢献活動
- (9) レクリエーション指導者派遣
- (10) 自治体等及び学校行事等の企画支援

(基本計画の策定及び活動方針の実施)

- 1 地域・社会貢献推進委員会は、10年程度を見越した5年間の基本計画を策定しなければならない。
- 2 学部、研究科、附属機関、短期大学部及び各委員会は、基本計画の実施について積極的に協力しなければならない。

卒業生・修了生のますますの活躍を願って

平成20年3月10日(月)、午前11時より横浜・健志台キャンパス米本記念体育館にて、大学体育学部及び短期大学部の卒業式が行われ、体育学部1,262名、短大183名に卒業証書が授与された。また、同日午後2時30分より、「体育専攻科修了式」が行われ、17名に修了証書が授与された。続いて同日午後3時30分より、「大学院学位記授与式」が行われ、博士後期課程3名、前期課程39名に学位記が授与された。



メディカルオンラインを導入しました (平成20年4月～)

図書館課

メディカルオンラインは、医学文献データベースです。

日本国内の学会・出版社発行の雑誌に掲載された医学関連分野の文献を検索し、その場で全文閲覧、ダウンロードすることができます。

パソコン上で臨床スポーツ医学、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、トレーニング・ジャーナル、スポーツメディスンなどの雑誌を検索、全文閲覧することができます。

学内のパソコンから利用できます。図書館のホームページから利用してください。

メディカルオンライン以外にも利用できるデータベースはありますので、ぜひ一度、「電子ジャーナル」を実感してみてください。

TOPICS 平成19年度退職教員紹介

堀居 昭 教授 (ほりい あきら)

昭和39年に本学を卒業後、東京大学教育学部研究生、東京大学大学院教育学研究科博士課程を経て、昭和47年に本学講師、昭和51年に助教授、昭和58年に教授として、主にトレーニング論を担当。平成2年東邦大学から医学博士号を授与。大学院研究科長、スポーツ・トレーニングセンター所長、社会体育学科長を歴任、人事委員会をはじめとする主要委員会の委員長等を務めた。学友会では、長年ボクシング部の部長を務めた。国内外での専門分野における活動が評価され、平成14年11月に「社会文化功労章」を受賞。平成20年3月定年退職。

笹淵 五夫 教授 (ささぶち いつお)

昭和35年に本学を卒業後、本学助手、講師、助教授を経て、昭和56年に教授。レスリングの専門家として学生指導・研究にあたる。昭和55年モスクワオリンピックのレスリング監督として出場予定であったが、ポイコットのため、幻となる。スポーツ局長、就職部長、寮監長を歴任、平成19年7月副学長に就任。JOCの委員や全日本学生ゴルフ連盟の理事、関東学生柔道連盟の理事等を歴任され、昭和59年8月は、文部省スポーツ功労者表彰を受章。平成20年3月定年退職。

千葉 吟子 教授 (ちば ぎんこ)

昭和36年に本学を卒業後、本学助手、講師、助教授を経て、昭和56年に教授。昭和35年ローマオリンピック、昭和39年東京オリンピックに選手として出場、団体総合三位の成績に貢献した。メキシコオリンピックでは日本代表審判員、ミュンヘンオリンピックでは体操競技のチームリーダーを務める。平成9年10月に日本体操協会功労賞を受賞。短期大学部体育科長、健志台教学局次長、女子学生寮の寮監長を歴任。学友会では、文化部長、体操競技部副部長、チアリーダー部長を務めた。平成20年3月定年退職。

稲垣 正浩 教授 (いながま まさひろ)

昭和35年に東京教育大学を卒業後、同大学大学院教育学研究科博士後期課程を経て、昭和44年に同大学の体育学部教務補佐員として採用。愛知教育大学教育学部助教授、大阪大学教養部助教授、奈良教育大学教育学部教授、大学院教育学研究科教授を経て、平成9年に本学大学院体育科学研究科教授。平成10年の本学大学院博士課程開設など、11年間に亘り、本学大学院教育の発展に大きく貢献。本学の博士後期課程のスポーツ文化・社会科学系主任。体育史を専門分野として、スポーツ史学会の会長、日本体育学会の常務理事、学術審議会専門委員科学研究費審査員を歴任。平成20年3月定年退職。

TOPICS 日本学生支援機構奨学生の募集について

日本学生支援機構奨学金の応募の機会は基本的に年に一度です。募集説明会の日時等は掲示で通知しますので、希望者は必ず確認をして、応募の機会を逃さないようにしてください。

なお、家計を支えている人の失職、死亡、不慮の事故、災害などによって家計が急変した場合は「緊急採用」「応急採用」がありますので、事情が生じたときには早急に東京・世田谷キャンパス学生生活課、横浜・健志台キャンパス健志台教学課に相談をしてください。

問い合わせ先

東京・世田谷キャンパス 学生生活課 03-5706-0904
 横浜・健志台キャンパス 健志台教学課 045-963-7900

TOPICS 平成20年度入学試験を終えて

アドミッションセンター

●アドミッションセンターの設置

本学の建学の精神に基づくミッション(社会的使命)やヴィジョン(目標)の実現のために、さらには有能な人材を日体大に誘うために、本学入試制度改革を積極的に推進する機関として、アドミッションセンターを設置しました(平成19年10月横浜・健志台キャンパスに開設)

●AO入試の導入

平成20年度より、本学の「建学の精神」、「理念」を十分に理解した上で、本学に入学する強い意志・意欲のある受験生を対象として実施しました。トップアスリートを対象とした『スポーツAO入試』と日本の伝統芸能や民俗芸能の習熟者を対象とした『武道学科AO入試(伝統芸能コース)』の2種類でスタートしました。

●一般入試実技試験種目の変更

平成20年度の入試制度改革で一般入試実技試験種目の見直しを行い、基礎的な身体能力(体力)を重視して評価する試験種目(50m走、ハンドボール投げ、反復横とび、上体起こし)に変更しました。

近年子どもたちの身体能力(体力)が低下傾向にあるといわれます。将来、学校をはじめとする社会のあらゆる場面で、体育・スポーツの指導者として活躍が期待されている日体大生としても、「体力」の重要性を再認識することが必要と判断し、入学試験時の実技試験では「体力」を重視した種目で評価することとなりました。

平成20年度 入学試験結果

(2008.3.25現在)

■大学/体育学部

※()内は女子内数 *倍率=受験者数÷合格者数

区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	倍率	
体育学科	A O	12 (7)	12 (7)	9 (5)	9 (5)	1.33
	推薦	442 (142)	442 (142)	424 (137)	423 (137)	1.04
	一般	1,599 (417)	1,579 (414)	494 (135)	371 (87)	3.20
	学科計	2,053 (566)	2,033 (563)	927 (277)	803 (229)	
健康学科	A O	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.00
	推薦	22 (15)	22 (15)	22 (15)	21 (14)	1.00
	一般	506 (202)	502 (201)	250 (103)	143 (65)	2.01
	学科計	528 (217)	524 (216)	272 (118)	164 (79)	
武道学科	A O	13 (9)	13 (9)	6 (4)	6 (4)	2.17
	推薦	48 (12)	48 (12)	46 (11)	46 (11)	1.04
	一般	77 (20)	74 (19)	73 (19)	63 (14)	1.01
	学科計	138 (41)	135 (40)	125 (34)	115 (29)	
社会体育学科	A O	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0.00
	推薦	28 (14)	28 (14)	27 (13)	27 (13)	1.04
	一般	665 (141)	660 (140)	298 (64)	155 (32)	2.21
	学科計	694 (155)	689 (154)	325 (77)	182 (45)	
合計	A O	26 (16)	26 (16)	15 (9)	15 (9)	1.73
	推薦	540 (183)	540 (183)	519 (176)	517 (175)	1.04
	一般	2,847 (780)	2,815 (774)	1,115 (321)	732 (198)	2.52
	総合計	3,413 (979)	3,381 (973)	1,649 (506)	1,264 (382)	

※一般入試には帰国子女特別選抜を含む

■短大/体育科・幼児教育保育科

区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	倍率	
体育科	推薦	109	109	95	72	1.15
	一般	232	230	141	72	1.63
	科計	341	339	236	144	
幼児教育保育科	推薦	43	43	42	37	1.02
	一般	18	18	18	10	1.00
	科計	61	61	60	47	
短大合計	推薦	152	152	137	109	1.11
	一般	250	248	159	82	1.56
	総合計	402	400	296	191	

■体育専攻科

志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数
10 (2)	10 (2)	10 (2)	10 (2)

■編入学

志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数
124 (115)	124 (115)	113 (110)	113 (110)

■短期大学部 専攻科保育専攻

志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数
45 (45)	45 (45)	45 (45)	45 (45)

■大学院体育科学研究科

区分	博士前期課程				博士後期課程			
	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数
スポーツ文化・社会科学系	15 (3)	14 (3)	10 (3)	8 (3)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)
トレーニング科学系	34 (10)	32 (9)	15 (5)	14 (5)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
健康科学・スポーツ医科学系	9 (3)	9 (3)	8 (2)	6 (2)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
合計	58 (16)	55 (15)	33 (10)	28 (10)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)



■平成20年度 学年暦

学務課

月	日(曜日)	行事	
4	平成20年(2008) 3(木) 4(金)～9(水)	入学式(横浜・健志台キャンパス) 新生オリエンテーション (健康診断、学生証手続き、履修申告、他) 在学生 健康診断、履修申告確認等	
	10(木) 10(木)～16(水) 14(月)～ 12(土) 30(水)	前学期授業開始 履修申告確認期間 大学 養護実習(健康学科養護コース4年)[5/10(土)まで] 介護等体験事前指導講習会(短大体育科1年・その他) 振替休日	
	5	1(木) 2(金) 6(火)	振替休日 振替休日 通常授業(みどりの日の振替休日)
	6	5/26(月)～6/21(土) 2(月)～21(土)	教育実習(大学4年)、教育実習(短大体育科2年) 教育実習2(短大幼児教育保育科2年)
	7	6/29(日)～7/13(日) 6/30(月)～7/13(日)	夏季実習期間1(幼児教育保育科は7/6～7/10) 大学 海浜実習(1年) 1回 30(月)～3(木) 2回 3(木)～6(日) 3回 7(月)～10(木) 4回 10(木)～13(日)
8	7(月)～10(木) 中旬 21(月) 28(月)～ 30(水)	短大 体験学習(1年) 短大 国際交流実習(体育科2年) 通常授業(海の日) 大学 看護臨床実習(健康学科養護コース3年)[8/29(金)まで] 前学期授業終了(試験を含む)(大学・短大体育科)	
	7/31(木)～8/6(水) 6(水) 7(木)～8(金) 9(土)～ 9(土)～	追試験・再試験期間(大学・短大体育科) 前期授業終了(試験を含む)(短大幼児教育保育科) 追試験・再試験期間(短大幼児教育保育科) 夏季休業[短大幼児教育保育科9/21(日)まで、 大学・短大体育科9/28(日)まで] 大学 社会教育実習(社会体育学科3年)[9/28(日)まで]	
	9	20(土) 22(月) 22(月)～28(日) 23(火) 29(月)	開学記念日 後学期授業開始(短大幼児教育保育科) ホームルーム(成績ガイダンス含む)(短大幼児教育保育科) 夏季実習期間2(大学・短大体育科) 通常授業(秋分の日)(短大幼児教育保育科) 後学期授業開始(大学・短大体育科)
10	9/29(月)～10/10(金) 13(月)	ホームルーム期間(成績ガイダンス含む)(大学・短大体育科) 通常授業(体育の日)(短大幼児教育保育科)	
11	1(土)～3(月) 5(水)、6(木) 24(月)	日体フェスティバル(10/31準備日、11/4撤収日) 振替休日 通常授業(勤労感謝の日の振替休日)	
12	22(月) 24(水)～ 平成21年(2009)	通常授業(12月授業終了日) 冬季休業[短大幼児教育保育科1/7(水)まで、 大学・短大体育科1/9(金)まで]	
1	8(木)、9日(金) 13(火) 26(月) 30(金) 27(火)～2/9(月) 19(月)～30(金) 31(土)	振替休日(短大幼児教育保育科) 1月 授業開始 後学期授業終了(試験含む)(大学・短大体育科) 後学期授業終了(試験を含む)(短大幼児教育保育科) 追試験・再試験期間(入試期間は除く)(大学・短大体育科) 短大 教育実習1(幼児教育保育科1年) 入学試験準備(関係者以外学内立入禁止)	
	2	1(日)～5(木) 6(金)～9(月) 11(水)～25(水) 中旬 2月末～3月 26(木)～3/4(水)	平成21年度入学試験 追試験・再試験期間(短大幼児教育保育科) 冬季実習期間 伝統文化交流実習、外国語実践実習(武道学科3年) 介護等体験事前指導講習会 ホームルーム期間(成績ガイダンス含む)(全学年) 在学生履修申告手続き期間(大学1～3年・短大1年)
	3	10(火) 11(水)～	卒業式 春季休業

■平成20年度新採用教員紹介



成田 和穂 (なりた かずお)
[大学：教授]
健康学科
スポーツ医学
香川医科大学大学院医学研究科博士課程
博士(医学)



角田 貢 (かくた みつぐ)
[大学：准教授]
教養・教職科
情報処理
東京工業大学大学院総合理工学研究科
物理情報工学博士課程
博士(工学)



横山 順一 (よこやま じゅんいち)
[大学：准教授]
健康学科
社会学
桜美林大学大学院国際学研究所老年学専攻修士課程
修士(老年学)



辻 昇一 (つじ しょういち)
[大学：助教]
体育学科
運動方法(ハンドボール)
日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程
修士(体育科学)

■NICS@Webを利用しましょう

電算課

◆NICS@Webってなに?

大学が運営するポータル(ネットワークへの入り口)システムです。

NICS@Webにログイン・ログアウトすることにより、学内外の高品質なネットワークを利用できるとともに、高度なセキュリティ保護技術により安全な利用をサポートしています。

即ち学内においてはログインIDを持っている人だけが学内ネットワーク(インターネット等)を利用できるようになっています。

◆なにができるの?

学生生活に有益なお知らせを見ることができたり、レポートの提出ができます。メールサービス(Webメール)も利用できるので、コミュニケーションもバッチリ!(今後、さらに発展します!)

◆どうすれば利用できるの?

まずブラウザ(Internet Explorer等)を起動してください。
大学から配布されたログインIDとパスワードを使ってログインすればOK!初回の利用時には、必ずパスワードの変更を行きましょう。変更しないしていると、他人に悪用される危険性があります。(学外からの利用は、https://portal.nittai.ac.jpにアクセス!)

◆一度ログインすればポータルサイトは閉じていいの?

いいえ。このポータルシステムへ「ログイン」している間のみ学内ネットワーク(インターネット等)の利用を認めています。ポータルシステムから「ログアウト」すればインターネットの利用はできませんし、「ログアウト」せずにページ(ウインドウ)を閉じた場合でも一定時間後には学内ネットワークの利用はできなくなります。(不正利用の防止)他人に利用されないように、使用後は必ず「ログアウト」する習慣をつけましょう。

◆Webメールってどのように利用すればいいの?

このポータルシステムで提供している「Webメール」は、インターネットに繋がる環境があれば学内外のどこからでも利用できるメールサービスです。モバイルアクセスやファイルの保存領域の提供など機能は盛りだくさんです。ぜひ使ってみてください。詳しくはサイト内のヘルプをクリックしてください。

◆自分のパソコンを学内に持ち込んで

学内ネットワーク(インターネット等)を利用できますか?

はい。東京・世田谷キャンパス、横浜・健志台キャンパスの様々な場所に情報コンセントが設置してあります。そこにLANケーブルを使ってパソコンを繋げば、NICS@Webを利用することができます。(日体ブルーの情報コンセントが目印です。)



[編集後記] いつもながら校了とにらめっこしながら編集作業を進めてまいりました。とくに今年は8月に北京でオリンピック競技大会が開催されますが、編集作業が大詰めを迎えた3月中旬から下旬にかけて、日体大関係者が出場権を獲得したというニュースが連日飛び込んできました。日体大を語るに欠かせないオリンピック。これまで日本が獲得したメダルの約4分の1を日体大関係者が占めているという輝かしい実績。多くの方々にもこの事実をご紹介したい!そして、出場を決めた選手を一人でも多く紹介したいとの思いから、ギリギリまで紙面のやり繰りに頭を抱えながらも、何とか発刊に至ることができ、ホッと安心の広報委員会でした。